



原子力産業新聞

2014年5月1日
平成26年(第2717号)
毎週木曜日発行
購読料1年分前金(消費税、国内送料込)
会 員 9,500円(1部220円)
非会 員 15,000円(1部350円)
(当会会費は年会費13万円に本紙購読料の9,500円を含む。1口1部)

発行所 日本原子力産業協会

〒105-8605 東京都港区虎ノ門1丁目2番8号 虎ノ門平塔タワー9階 郵便振替 00150-5-5895
電話 03(6812)7103 FAX03(6812)7110 ホームページ http://www.jaif.or.jp/ メールアドレス shinbun@jaif.or.jp

昭和31年3月12日第三種郵便物認可

川内1、2号機の補正提出

九州電力、新規制基準審査で

最終の「審査書案」作成へ



審査は最終段階へ(写真は川内1、2号機)

九州電力は四月三十日、川内原子力発電所1、2号機の新規制基準に係る適合性審査に伴い設置変更許可申請の補正書を原子力規制委員会に提出した。これまでの同審査会合での指摘事項を反映し、震源を特定せずに策定する地震動、基準津波、その他自然現象への対応や、重大事故対策について、追加、見直しを図っている。

同機は、一三年七月の新規制基準の施行直後、適合性審査の申請がなされており、規制委員会が二月に了解した今後の審査の進め方に基づき、三

月十三日の同委会合で、「大きな審査項目をクリアできた」として、優先的に審査を進めるものとされた。その後、九州電力は四月十日の審査会合で月末にも今回の補正書提出の方針を示していた。川内1、2号機は、審査中の他プラントに先駆け「審査書案」作成のステージに入り、規制委も

人材など基盤の強化を

経産委員会で質疑応答

参議院の経済産業委員会(委員長 大久保勲氏)は四月二十四日、原子力損害賠償支援機構法改正案審議のため、京都大学原子炉実験所教授で国際廃炉研究会(委員長 山名元氏)を招き、質疑応答を行った。

小規模凍土壁、効果確認

福島第一 A L P S・A 系統再開

資源エネルギー庁は四月二十四日、福島第一原子力発電所廃止措置の進捗状況を公表した。1〜4号機を取り囲む凍土遮水壁設置のファイナリティスタディとして三月から開始された十m四方の小規模凍土壁の造成試験では、凍結が確認され実運用への見通し

が得られた。また、ホット試験実施中の多核種除去設備では、点検、不具合除去を実施していたA系統が二十三日までに処理を再開し、B系統は内部除染が継続実施中。一四年度末までに総容量八十立方mを目指す滞留水貯留タンク増設計画では、工場完成型タンク(II)写真も陸揚げされ、今後



写真も陸揚げされ、今後

5つの選択肢に整理

専門家会合 トリチウムの取扱いで

四月二十三日、多核種除去設備後のトリチウム水に関する資源エネルギー庁の専門家会合が開かれ、一三年十二月から十二月の議論を整理した。トリチウム水取扱いの選択肢としては、地層中に注入廃棄、「海洋放出」、「水蒸気として大気放出」、「水素に還元し水素ガスとして大気放出」、「固化またはゲル化し地下に埋設廃棄」の五つの選択肢が、一時的な措置として「貯蔵」があげられ、これらと、希釈、同位体分離の前処理実施の有無とを組み合わせてリストの形にまとめた。そのうえで、今後、さらに検討していく評価項目として、環境・水産物・人体への影響、処理期間、対策実施に係るコスト、技術的可能性、法規制上の困難さをあげている。

高レベル処分地の選定方法見直し

工不庁WG

高レベル放射性廃棄物の最終処分地選定の在り方を検討してきた経済産業省・資源エネルギー庁の放射性廃棄物ワーキンググループ(WG)は三十日、現行の計画を見直し、国が科学的に適した地域を提示する処分地選定の考え方を盛り込んだ報告書をまとめた。自治体から処分地の候補に応募してもらった仕組みを改めるほか、受け入れ側の

これに対応し態勢を整える構え。

IRR S 受入れ準備へ

規制委 規制に関する総合レビュー

原子力規制委員会は四月二十三日、一五年末を目途に受け入れることとしているIAEAの総合的規制評価サービス(IRR S)について、基本的姿勢や今後の準備体制、手順などを大枠で決定した。IAEA/IRR Sは、加盟国の原子力規制に関する総合的レビューを行うもので、日本では〇七年に受け入れたことがある。

自治体の負担軽減策を検討、処分後も政策変更や技術開発に応じて廃棄物を取り出せる方式に見直している。また処分に適した場所は我が国に広範囲に存在するとの評価結果も示された。

また、廃止措置に伴い発生する廃棄物の処理方や、安全規制の整備などにも触れた上で、現場と技術開発とを緊密に連携させるCOEセンター！

「オプ・エクセレンス」を設け、民主党政で東京電力出身の小林正夫が、廃炉に携わる人材の育成に関する考えを尋ねたのに対し、山名氏は、規制委員会としては、「勧告や助言事項を真摯に受け止め改善すべきところは積極的に改善」することを基本的姿勢に据え、今後の膨大な準備作業に向けて、規制庁内にIRR S室を設置し、自己評価書の策定、IAEA Aサイトとの調整などに取り組んでいくこととしている。

また、規制委員会としては、「勧告や助言事項を真摯に受け止め改善すべきところは積極的に改善」することを基本的姿勢に据え、今後の膨大な準備作業に向けて、規制庁内にIRR S室を設置し、自己評価書の策定、IAEA Aサイトとの調整などに取り組んでいくこととしている。

自治体の負担軽減策を検討、処分後も政策変更や技術開発に応じて廃棄物を取り出せる方式に見直している。また処分に適した場所は我が国に広範囲に存在するとの評価結果も示された。

また、廃止措置に伴い発生する廃棄物の処理方や、安全規制の整備などにも触れた上で、現場と技術開発とを緊密に連携させるCOEセンター！

「オプ・エクセレンス」を設け、民主党政で東京電力出身の小林正夫が、廃炉に携わる人材の育成に関する考えを尋ねたのに対し、山名氏は、規制委員会としては、「勧告や助言事項を真摯に受け止め改善すべきところは積極的に改善」することを基本的姿勢に据え、今後の膨大な準備作業に向けて、規制庁内にIRR S室を設置し、自己評価書の策定、IAEA Aサイトとの調整などに取り組んでいくこととしている。

また、規制委員会としては、「勧告や助言事項を真摯に受け止め改善すべきところは積極的に改善」することを基本的姿勢に据え、今後の膨大な準備作業に向けて、規制庁内にIRR S室を設置し、自己評価書の策定、IAEA Aサイトとの調整などに取り組んでいくこととしている。

この一週間の出来事

(24日(木)~30日(水))

- ・東京多摩地区で約30万件の夜間停電(27日)
- ・東海再処理でMOX粉末化運転開始(28日)
- ・安倍首相、欧州諸国へ渡航(29日)

原産新聞の紙面から

◇国内ニュース

- ・JANSI 報告会、PRA活用で討論(2面)
- ・経済同友会がエネ・環境政策で提言(2面)
- ・春の叙勲受章者が発表(2面)
- ・「原発対応版」災害用口ポット、原電に(4面)

◇海外ニュース

- ・台湾政府、龍門原発の建設停止を発表(3面)
- ・米TRU処分場の放射線漏れで報告書(3面)
- ・仏アレバ社、副社長にインタビュー(3面)

また、規制委員会としては、「勧告や助言事項を真摯に受け止め改善すべきところは積極的に改善」することを基本的姿勢に据え、今後の膨大な準備作業に向けて、規制庁内にIRR S室を設置し、自己評価書の策定、IAEA Aサイトとの調整などに取り組んでいくこととしている。

また、規制委員会としては、「勧告や助言事項を真摯に受け止め改善すべきところは積極的に改善」することを基本的姿勢に据え、今後の膨大な準備作業に向けて、規制庁内にIRR S室を設置し、自己評価書の策定、IAEA Aサイトとの調整などに取り組んでいくこととしている。

私たちはエコな暮らしと
エコな社会をつくっていきます。

商品で、技術で、モノづくりで。
エコな暮らしのスタイルと、エコな社会のスタイルを
創造していく。それが東芝のecoスタイルです。

eco スタイル

この星のエネルギーとエコロジーのために。東芝

TOSHIBA
Leading Innovation >>>

